

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2021年 3月 4日

放課後等デイサービスはなはな スタッフ5名

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		遠すぎず近すぎずワンフロアで見られる。	定員数を満たした状態になると手狭に感じている。遊び内容や過ごし方に応じた使用方法をその都度検討している。
	2	職員の配置数は適切である	○		利用人数に対して基準人員2名とプラス1名と配置している。今年度から時間帯によるが5人体制を取っている。	送迎で職員の出入りが多い時もあり、余裕がない時もあるが子どもの人数が多い時間帯は可能な限り5人体制をとっている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		事業所内には段差がなく、車イスやバギー等そのまま入ることが出来る。	場所によって活動内容を分ける等の配慮を行い、場所の構造化を図り本人が活動の理解を深めれるように取り組む。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		空気清浄や清掃は常に取り組んでいる。また季節に応じた衣替えも実施している。	最新の空気清浄機を購入し、また換気も行っている。感染症等の世間の動向に着目し、子どもの健康と安全に務める。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		会議や子ども達がいらない空いた時間に支援方法の見直しや改善等の共有をしている。	こどもの利用頻度によって支援方法・内容の検討機会の偏りが見られるので随時スタッフ間で共有を行う。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		スタッフ全員で評価表を確認し、把握して業務改善に繋げている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	学習セミナー等の企画を通じて、第三者による意見を取り入れ業務改善を	法人としての第三者委員はあるが、定期的な評価は受けていない。今後検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人内の研修には積極的に参加している。	コロナ禍のため、動画配信等工夫をして研修に参加している。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		利用前に面談にてアセスメントの聞き取りをして、情報を基に子どもの状況・課題・ニーズなどを把握し支援計画を作成しています。	利用中はその都度アセスメントをして計画の見直しをしている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		必要な児童にはツールを利用している。	事業所とご家庭や学校とでのツールが異なる事があるので、状況に応じて適宜連携をとる。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ご家庭と連絡をとりその状況に応じたニーズを聴き取り、支援計画に反映している。	本人とご家族双方の思いやニーズを可能な限り聞き取り、双方の意思をくみ取った支援方針を検討していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		スタッフ間で共有し支援にあたっている。	常に本人の状況が変わるので、都度関係各所と連絡を取り詳細を確認する。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		スタッフ全員で行っている。	より活動内容が本人に伝わるような提示の仕方も立案時に検討する。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		過去のプログラムと照らし合わせて立案・検討を実施している。	個々のニーズに合わせている。子どもの主体性を大切にしている。保護者の方と相談して、あえて固定化している子どももいるので、『はい』とは言いがたい。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		子ども達それぞれに合わせて作成している。	集団活動の内容・プログラムを検討する。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	○		その日の体制等をホワイトボードへ掲示し、スタッフ間で共有している。	安全性を確保した体制を今後も心がける。
	18	○		当日は送迎等で出来ないことが多いが、合間の時間や翌日に振り返りや気づいた点の話をしている。	送迎の兼ね合いでスタッフが揃って当日に振り返る事が出来ていないので、可能な範囲で記録等に残していく。
	19	○		日々の内容を記録し、検証・改善につなげている。	左記の内容を継続し、必要があれば都度モニタリング等を実施し記録を重ねる。
	20	○		モニタリングを行い、計画の見直しをしている。	状況に応じた支援方法・内容の計画変更に努める。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	○		サービス担当者会議には参加している。	相談支援事業所の方と連携を取り、現状の把握に努める。
	22	○		必要に応じて、区役所や子育て支援センターと連携を取っている。	
	23		○		現在、児童発達支援の幼児にはいない。
	24		○		現在、児童発達支援の幼児にはいない。
	25	○		必要に応じて、情報の交換を行っている。	ご家庭への連絡・共有を基本とするが、左記の部署とも必要に応じて都度連絡・共有の幅を広げていく。
	26	○		必要に応じて、情報の交換を行っている。	上記記載と同様。必要に応じて都度連絡をとる。
	27	○		必要に応じて、情報の交換を行っている。	コロナ禍のため見学や訪問は控えているが、必要とあれば電話等で助言等をいただいている。
	28	○			保育所や幼稚園等ではないが、公園にて地域の子ども達と一緒に遊ぶ機会はある。
	29	○			できる限り参加するように心がけている。
	30	○		送迎時にその日の様子等をお伝えしたり、連絡帳でやり取りをしている。	ご家庭によっては、写真をLINEで送ってお伝えしている。
	31		○		はなはなにて直接的な支援は行っていないが、間接的に相談支援事業所に情報を提供したりしている。
	32	○		契約時に説明を行っている。	変更等があった場合速やかに連絡・報告を行うことに留意する。
	33	○		支援計画を作成した後、各保護者に必要に応じた説明を実施している。	本人の様子に適切な支援内容と方針を定め、必要があれば適宜変更を行う。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		ご相談があった時には、対応している。	送迎時や連絡帳等を通じて日々のやり取りの中から、ニーズの掘り起こしを行う。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	コロナ禍のため、自粛をしている。	以前は、親睦会にて、親同士の交流や連携を取り、セミナーでは外部の先生にお越しいただき、勉強会をしていた。コロナ禍が終息した後は、企画をする予定である。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		ご家庭の状況により、相談や受け入れの申し入れがあった場合については可能な限り相談に応じている。	当事業所だけで取り組むのではなく、必要に応じて相談に対応できるように他部署に依頼を依頼する等の体制確保に努める。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		年間5号前後、通信を発行し、活動報告、行事予定等を発信している。また、ホームページ上のSNSを活用し、発信も行っている。	必要に応じて、説明や報告又は資料を用いて、ご家庭や本人が分かりやすいような発信を心がける。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報には十分に注意し管理している。	改善するような出来事は現状ではないが、引き続き留意する。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		連絡帳、メール、FAX等を使ってできている	意思の疎通については様々なツールや非言語コミュニケーション等の方法を用いての配慮を引き続き取り組む。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	コロナ禍のため、自粛をしている。	今後も継続して実施し、機会を増やせるよう企画検討を進める。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルを事務所に掲示及びスタッフに周知し、確認を行った。また保護者にも説明配布を行っている。	今後も定期的な避難訓練を長期休暇等を利用し取り入れていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		今年はコロナ禍のため、阿倍野防災センターに行けなかった。しかし、長期休みごとに避難訓練の日を設けて子ども達と勉強会、訓練は継続して行っている。	毎回、地震・火事などテーマごとに行っている。児童発達支援の幼児はまだ回数はないが、放課後等デイサービスの児童と一緒にやっていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		契約時に詳しくお聞きしている。	変更があればその都度お聞きしている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者の方より注意点をお聞きしている。また昼食時やおやつ時には席を離すなどの対応を行っている。該当幼児が来所時には調理実習やおやつ作りをしていない。	該当幼児が来所していても調理実習やおやつ作りをみんなと一緒に体験出来るようにアレルギー除去したものを考えて行っていく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		大きなヒヤリハットはなかったが、その都度、共有し、再発防止に繋げられるよう取り組んでいる。	ファイルに保管し、スタッフがいつでも閲覧できるようにしている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待や権利擁護の研修を法人として行っている。	改善すべき点は現状ではないが、研修への参加機会を増やせるような体制を目指す。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	身体拘束をしていない。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。